



## STOLLE MACHINERY 社、IFS Applications™で 複数の事業部を統合

2004年1月、米国のアルミニウム関連の大手製販企業である Alcoa 社が同社の子会社である Stolle Machinery 社を売却したため、Stolle Machinery 社の経営陣は、早急に同社の IT システム基盤に関していくつかの決断を下す必要に迫られました。Stolle Machinery 社は、コロラド州 Centennial を拠点として、缶などの金属容器を製造する機械設備の設計、製造、販売を行っています。同社の機械設備は Rexam 社や Ball 社といった大手包装企業に導入され、そこで製造された容器は Coca-Cola 社や Pepsi 社といった飲料会社や SPAM®などの食品会社へ提供されています。Stolle 社では、売却前には、Oracle 社のビジネスアプリケーションの導入を計画していました。

Stolle Machinery 社の ERP プロジェクトマネージャーである Michael Kalkman 氏は、次のように述べました。「Alcoa 社は Oracle 社の製品を導入する予定でしたが、Alcoa 社が当社を American Industrial Partners 社へ譲渡することを決定したとき、我々の経営陣は別の選考プロセスを開始しました。そして、最終的に IFS Applications を選択し、導入することになりました」

しかし、この企業分割は、Stolle 社が IT システムを使って対応しなければならない一連の課題のうちの最初の 1 つに過ぎなかったのです。2004年4月、Stolle 社は IFS のサプライチェーン・マネジメント、会計、要員管理のアプリケーションの導入に着手しました。そして、同年6月に会計パッケージを本稼働させました。しかし、2004年の11月に Stolle 社はさらに別の会社を買収したため、この導入プロジェクトを再調整して新しい事業部に対応させる必要が生じました。この時点で一番重要だったことは、もはや古いシステムを単純にリプレースすることではなく、標準的な ERP を導入することで 3 社のシステムを統合することでした。

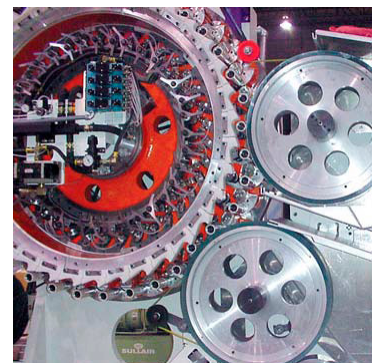
Kalkman 氏は、次のように述べました。「我々が運用するのをやめた旧システムは、IFS Applications のように統合に適したシステムではありませんでした。また、データの整合性に問題があったため、会計部門が毎月末に照合しなければなりません。しかも、統計に基づいたいかなる種類の分析も困難だったのです。しかし、そのような状況にも関わらず、突然我々は 5 つの異なる事業部を 1 つの企業の管理下に置く必要に迫られました。我々は、5 つの 4,000 万 USドル規模の企業としてではなく、1 つの 2 億 USドル規模として事業を行っていきたくったのです。さらに、5 つの事業部が異なる方法で顧客やサプライヤーに対応するのではなく、ひとつの企業として対応を統一し、且つ、各事業部に同じプロセスを導入したいと考えていました」

Stolle Machinery 社は、IFS Applications の導入プロセスを中断して、この計画について再考しました。そして、同社の企業ソリューションを使って異なる事業部を積極的に統合することと共に、IFS Applications を最新のバージョンにアップグレードすることも決断しました。

Kalkman 氏は「2005年3月、我々は残りのモジュールの導入と IFS Applications 2004 へのアップグレードに着手しました。そもそも、IFS Applications 2003 では、当社を 3 つの企業として扱っていました。しかし

### STOLLE MACHINERY について

1961年に設立された Stolle Machinery 社は、複雑な製造機械の設計、エンジニアリング、組立てを行っています。同社は、製缶機械産業における世界的なマーケットリーダーであり、缶の製造や成形を行うための機械設備一式を取り揃えています。さらに、同社は、Didde 社の輪転印刷機械の提供も行っており、オフセット輪転印刷産業のリーダーでもあります。北米では最大の市場シェアを持ちます。同社は、米国オハイオ州に 2 工場、デンバーに 2 工場の合計 4 つの製造拠点を構えています。



IFS Applications 2004 では、複数の事業部を持つ 1 つの会社として対応し、水面下でトランザクションの統一整備を図りました」と述べました。2005 年 7 月には Stolle 社のコロラド州にある全拠点への導入作業が完了しました。そして、2006 年 3 月には、オハイオ州の全拠点でシステムが本稼動しました。ユーザー数は合計で 240 名にまで上りました。

### 使い勝手の良さと今後の発展

Kalkman 氏は、Stolle 社に勤務する以前は IFS の競合製品の導入コンサルタントをしていました。同氏は、Stolle Machinery 社の新しい IT システム基盤の強みは、その使い勝手が良いことであると述べています。

Kalkman 氏は「IFS Applications は Windows®ベースの製品ですが、我々が以前に使用していたシステムは違いました。Stolle 社ではこれまでに、DOS ベースの ProMan、MANMAN®、MAPICS(現 Infor) Syteline システムを使用することがあります。これらの DOS ベースのシステムをサポートするためには、かなりの作業を要しました。しかも、Windows ベースのシステムに比べて、習得するのに時間がかかりました。IFS の新しい企業向け IT システム基盤のおかげで、新しい従業員のシステム習得はかなりスピードアップしました。さらに、様々な分析を行う時にも、Excel®や Access もしくは他のアプリケーションにクエリー画面をエクスポートできるので便利です。Windows ベースのシステムの利点は、Windows 上で稼動するソフトウェアにデータをエクスポートできることです」と述べました。

また、Stolle Machinery 社は、顧客やサプライヤーとの垣根を越えてシステム環境を拡張しました。今では、Stolle Machinery 社は Web ポータルを使って、顧客にリアルタイムにオーダーに関する情報を提供しています。またサプライヤーとの協業も効率化できました。

「これに対して、顧客やサプライヤーから良い反響を得ています。IFS の Web ポータルを利用するには、協業するためのライセンスが必要であるため、我社ではこのポータルを主要な顧客にのみ提供しています。さらに、サプライヤーの生産能力や技術力に応じてこのポータルを解放しています。サプライヤーの中には、オーダーを電子的に受注している会社もありますし、郵便や宅配便あるいは FAX よりももっと経済的に、メールや我社のサプライヤー向けポータルを利用している会社もあります」

Kalkman 氏によれば、顧客は、Eコマースポータルを利用して、彼らが新規に発注した設備のオーダー状況を閲覧することができますが、ほとんどは、スペア部品の購買を先を見越して管理するのにこのシステムを使用しています。

Stolle 社は、最近、IFS Spreadsheet Data Manager を追加導入しました。これは、ユーザーが IFS Applications からデータをエクスポートし、それをまた IFS ビジネスロジックを介して再びインポートすることで、正しいデータを取り込まないようにするツールです。さらに、IFS/営業・マーケティング支援、ビジネスパフォーマンス、サービスマネジメントのソリューションも追加しています。将来、Stolle 社は新バージョンの IFS Applications 7 へアップグレードする予定です。IFS Applications 7 ではプロジェクト型業種向けの機能が強化されており、Stolle 社ではこれを受注生産環境で活用していきます。

最後に、Kalkman 氏は次のように述べました。「IFS Applications 7 を使って、プロジェクトから会計までを完全に統合できます。このおかげで、同社は設備建設企業へと確実に発展することができます。我社が 2007 年あるいは 2008 年に次にシステムをアップグレードする時には、我社のプロセスフローのいくつかを強化できる機会が得られることでしょう」と述べました。

### 効果

- ・ 統合ソリューションで複数事業を一体化
- ・ コスト効率の良いステップバイステップの導入
- ・ 使い勝手の良いシステム
- ・ Web ポータルを介した顧客とのリアルタイム・コミュニケーション

